

## ○ 委員長報告

2月定例会本会議で報告された総務企画委員長報告は、以下のとおりです。

令和5年2月定例会

### 総務企画委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、予算編成等業務プロセス改革についてであります。

このことについて一部の委員から、予算編成手法の見直しなどの取組みはどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、今年度から政策立案・予算編成・執行・決算・評価に至る一連の業務プロセスにおいて、常にKPIを意識し成果を重視した検証、改善が可能となる仕組みづくりに取り組み、来年度当初予算案の160を超える主要事業にKPIを設定するとともに、研修など職員の意識改革も進めているところである。

来年度は、一連の業務プロセスのすべてをデジタルで一気通貫するプラットフォームを開発し、DXを推進するほか、KPIを使った成果の見える化を積極的に進め、県民に対しての説明責任を一層果たすとともに、成果重視のマネジメント体制を構築し、政策立案型行政の更なる深化に取り組んでいきたい旨の答弁がありました。

第2点は、第二別館の建替え工事についてであります。

このことについて一部の委員から、工事の進捗状況とユニバーサルデザインへの対応はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、現在、既存庁舎の解体工事を行っており、完了後、本年10月からは新築工事に着手し、令和8年1月末の完成を予定している。

資材価格や労務単価の高騰により総事業費が当初計画より約15億円増加し、約113億円となる見込みであるが、今後ともコスト削減等に努め、令和8年度の供用開始に向け着実に整備を進めたい。

新第二別館は、県内の障がい者団体等の意見も踏まえ、誰もが利用しやすいユニバーサルデザイン庁舎とする計画であり、案内標識にはピクトグラムを採用し、トイレにはオストメイトやベビーベッド等を配置するほか、段差をなくし、通路幅を広くとるなど、多様な来庁者が快適に利用できるよう配慮する旨

の答弁がありました。

第3点は、地域公共交通の維持についてであります。

このことについて一部の委員から、地域公共交通維持のための新しい取り組みはどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、地域公共交通の根幹である生活バスについては、近年、路線の廃止が進み、代替として市町が導入するコミュニティバスも利用者が少なく経費が増大している。

県ではこれまで、主に幹線交通に対する補助を行ってきたが、コロナ禍や燃油高騰を受けて、交通事業者への直接的支援を実施したほか、EVバス・タクシー車両等の導入支援など、中長期的な経営改善に資する事業も行っている。

また来年度、松野町で、高齢者等の移動を担う新しいオンデマンド交通を実証することとしており、今年度の今治市の事例等とともに結果を検証し、県内での横展開に繋げるなど、新しい交通のあり方を検討していきたい旨の答弁がありました。

このほか、

- ・新建設事業総合管理システム
- ・県・市町連携「チーム愛媛」の取り組み
- ・デジタル関連の新規予算
- ・集落实態調査
- ・「三浦保」愛基金の運用状況

などについても、論議があったことを付言いたします。

最後に、請願について申し上げます。

請願第53号は、願意を満たすことができないとして、不採択と決定し、請願第54号は、願意妥当と認め、全会一致で採択と決定いたしました。

以上で報告を終わります。